



お客様紹介

株式会社ヤマトフードサービス 花巻工場様

(ISO22000:2005 認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄 Hideo Mino

株式会社ヤマトフードサービス 花巻工場様は、2016年8月、岩手県内飲食店関連企業として初のISO22000を認証取得されました。トレーサビリティ（生産履歴）を基本とした製品の品質管理、問題があった場合の対処などを細かく規定されています。

同社は主に関連会社である株式会社ヤマトで岩手県・宮城県に店舗展開されている「焼肉・冷麺ヤマト」全店に、店舗で使用する冷麺スープやブイヨン、食肉の加工を手がけられています。岩手県内で、焼肉・冷麺ヤマトと言えば「盛岡冷麺」、岩手を代表する三大麺の1つです。コシのある麺、自慢の自家製カクテキ（大根キムチ）、あとは何といても同社で作成する牛骨等じっくり煮込んで作られる

コクのあるスープが、絶妙なバランスで溶け合いヤミツキになるのです。焼肉店にもかかわらず冷麺だけ注文のお客様もおられます。

2016年9月で創業30周年を迎え、「お客様の笑顔のために、心に残るありがとう。社会のため、お客様のため、会社のため」という経営理念に基づき、これからも衛生管理、品質管理に努め、安心・安全な商品を提供していかれます。



<http://www.yamato55.com/>

連載よみもの

審査員の心理

第21回（環境編）

「環境目的・目標」

環境主任審査員 大村 敏夫 Toshio Omura

環境目的・目標については、その目標が組織にとって本当に必要な課題になっているか、疑問に感じることがあります。組織の実態と設定された目標を比べることにより、その組織（経営者や担当者等）の環境管理に対する姿勢を推察できることもあります。ISO14001:2004までは、目的・目標は著しい環境側面から導かれるという解釈がされ、著しいと評価されなかった環境側面は目的・目標になりにくい流れでした。

ISO14001:2004でも、環境目的の定義では「環境方針と整合する全般的な環境の到達点」であり、規格本文でも著しい環境側面は「その目的及び目標を設定するにあたって、考慮に入れる」ものであると規定しているので、方針から環境目的・目標が導かれても良いはずですが、そのような例はあまり見かけません。組織によっては、著しい環境側面は必ず目的・目標にするものという解釈がされ、そのため、著しい環境側面に“目標にし易いもの”が選定されがちとなり、“電力削減→スイッチは小まめに切りましょう”、“コピー用紙の削減→裏紙の使用”などの、いわゆる「紙・

ゴミ・電気」を目標としている組織を見かけます。システム構築したての組織なら、練習のために「紙・ゴミ・電気」から始めても良いでしょうが、何年もシステムを運用している組織で「紙・ゴミ・電気」に留まっていると、心もとなさを感じることもあります。環境側面の特定・評価の段階で、目的・目標にし易い課題に絞り込まれていると感ずることがあります。

ISO14001:2015では、目的などの取組みを導く流れが、より明確に示されています。“組織の状況”として、内外の課題や利害関係者の要求事項を明確にし、“リスク及び機会”を特定して“取組み”を定めるという流れで、その際には、環境側面や順守義務も考慮しなければなりません。ここでの“取組み”とは主にリスクを回避するための管理手段で、現状の管理で不十分なところがあれば、改善課題を目標として取り組むことになるでしょう。

このようなISO14001:2015の新しい考え方については、次回に続けたいと思います。

